

[飯田俊夫委員]

No.	箇所	ご意見	回答
(1)	資料1 P2	プラスチック資源の指定袋については、プラスチック資源も他のごみと同様にリデュース・リユースが求められている。脱プラ生活を推奨していく立場を取るのであれば、新たな経済的負担にならないという点も考慮して、現行の可燃ごみ、不燃ごみと同等の金額が望ましいと考えている。	3Rの推進等も踏まえて、指定袋制度運用について検討してまいります。
(2)	資料1 P2	収集運搬体制を効率的に運用していくためには、コストとの兼ね合いもあるが、搬入先を分散することも検討すべきと考える。	サウンディングの結果等を踏まえつつ、収集運搬効率を高める工夫について検討してまいります。
(3)	資料1 P2	収集体制を構築していくにあたり、事業の継続性を担保するためにこれまで千葉市の施策に協力してきた業者に対して意見の聴取等をお願いしたい。	収集運搬を担ってきた事業者から意見聴取等を行い、実施体制の検討に役立ててまいります。
(4)	資料1 P5	計画人口について、ピークアウトしていくことは確実と思われる。人口動態を注視し、必要があれば微調整していくことがよい。	人口の推移を踏まえ、適宜、点検してまいります。
(5)	資料1 P12	財源については、特別交付税、リサイクル等推進基金の活用などが掲げられているが、事業費規模感からすると、基金の枯渇に直面するのではないいか。持続可能な事業になるよう、実施計画を策定する中で、必要事業費を精査し、これに見合った財源を確保することが肝要である。	家庭系プラスチック分別収集・再資源化にかかる事業費を精査するとともに、財源確保策についてさらに検討し、分別収集・再資源化事業を持続的に実施できる体制の構築に努めてまいります。